

銀行の法人融資業務への I T 投資効果の定量評価 ーリアルオプションとバランススコアカードによる仮想事例の構築ー

埼玉大学大学院 青木 ^{かつと} 克人

情報システム化投資が銀行経営の主要課題の一つとなる中、その定量的効果を評価することは、適切な情報化戦略策定の前提となることは言を待たないが、そこには多くの課題がある。そうした課題のうち、特に大きなものは2点に集約されると考えられる。1点は、そもそも、情報システム化投資が、財務上与える効果（定量効果）の算出そのものが困難な点である。もう1点は、特に、情報システム化投資の効果を事前に評価するということは未来の予測を行うことである、つまり、リスクを考慮する必要が生じるという点である。この2点の課題が存在するため、定量評価そのものが実施されないか、実施されたとしても、定量評価の結果が軽視されがちとなっているのが現状と考えられる。

1. 本報告の方向性

本報告では、仮想地方銀行の法人融資業務への I T 投資を想定し、情報システム投資による融資からのスプレッド収入増をバランススコアカードにより定量化し、投資効果のリスク変数を二項過程によるリアルオプションアプローチで処理することにより、上記2点の課題への対応策を提示する仮想モデルケースを提案する。

2. バランススコアカードによる I T 投資効果の定量化

法人融資申込・審査へのワークフロー（電子承認・回覧）システム導入の効果を法人融資審査件数の向上とし、地方銀行の収益に影響を与える融資申込受付件数、平均融資承諾率、スプレッド、貸倒率等から K P I を設定し、バランススコアカードを用いて定量化するアプローチをとる。

3. リアルオプションによるリスク処理

二項過程による拡張オプションの採用により、K P I のリスクを削減し、NPV が増加する過程をモデル化する。

4. モデル活用の方向性

情報システム化投資の意思決定を、定量効果とそのリスクを明確にした上で行うことが可能になる。また、稼動中の K P I による業務目標管理、投資効果の事後評価等も、事前の前提が明示されることにより、有効に実施されることが期待される。